

資料

第1節 参考文献

第1項 書籍

- 相賀寿次 編纂『児童生活研究』(1941(昭和16)年9月5日、小学館)
- 荒木 茂久二／熊埜御堂 定 共著『国民学校令正義』(1941(昭和16)年5月25日、目黒書店)
- 池内房吉『国民学校 初一の学級経営』(1941(昭和16)年5月20日、晃文社)
- 石川師範学校女子部附属国民学校『学習の新形態』(1946(昭和21)年12月5日、尾山書房)
- 石山脩平、森屋高蔵『国民学校実践教育学』(1940(昭和15)年11月20日、国語文化研究所)
- 伊藤忠好『民族教育学序説』(1942(昭和17)年2月25日、育芳社)
- 伊藤文一『皇国の道と国民学校 一其の理念・性格・実践一』(1943(昭和18)年3月15日、三井出版商会)
- 伊藤正文『国民学校』(1941(昭和16)年12月15日、相模書房)(建築叢書)
- 稲富栄次郎『現代日本の教育学』(1942(昭和17)年1月28日、育芳社)
- 上田庄三郎『国民学校教師論』(1941(昭和16)年1月18日、啓文社)
- 内田安久『国民学校の「場」的経営』(1941(昭和16)年3月24日、厚德書院)(実践教育研究叢書 第三編)
- 宇野誠一『実地授業の準備と指導』(1934(昭和9)年6月30日、高踏社)
- 梅根 悟『初等教授改革論』(1940(昭和15)年9月15日、賢文館)
- 大阪府天王寺師範学校／同附属小学校 編著『国民学校精説』(1940(昭和15)年8月5日、東洋図書)
- 大山『国民学校令積義』(1941(昭和16)年4月20日、富山房)
- 緒方明吉『国民学校 私の国民科綴方研究授業』(1942(昭和17)年2月1日、晃文社)
- 長田 新『新知育論』(1939(昭和14)年3月29日、岩波書店)
- 小原国芳『国民学校案』(1940(昭和15)年3月20日、玉川学園出版部)(国民学校研究叢書 第一巻)
- 海後勝雄『東亞民族教育論』(1942(昭和17)年11月31日、朝倉書店)
- 海後宗臣『大東亞戦争と教育』(1942(昭和17)年3月30日、教学局)(教学叢書第十二集)
- 外務省調査部編纂『独逸の教育、文化、社会政策』(1941(昭和16)年8月2日、日本国際協会)
- 門田重雄編著『国民学校法規の解説と実際』(1941(昭和16)年9月20日、湯川弘文社)
- 神奈川県女子師範学校附属国民学校『実践記録に基く我が校 国民科授業細目(初四)』(1943(昭和18)年12月1日、神奈川県女子師範学校附属国民学校)
- 神田次郎『実践 日野教育の錬成記録』(1942(昭和17)年11月7日、明治図書)
- 菊沢季生『国語と国民性 一日本精神の闡明一』(1940(昭和15)年8月20日、修文館)
- 紀平正美『日本精神』(1930(昭和5)年9月20日、岩波書店)
- 興亜教学研究会編『日本教育の本義』(1940(昭和15)年3月25日、目黒書店)(教学新書9)
- 興亜教学研究会編『日本教育の本義』(1940(昭和15)年3月25日、目黒書店)(教学新書9)
- 金田一京助『新日本国語のために』(1948(昭和23)年10月20日、朝日新聞社)
- 国語教育学会編『国民科国語の指導 ヨミカタ一』(1943(昭和18)年1月30日、岩波書店)
- 国民訓育連盟 編『興亜教育の本義と実践』(1940(昭和15)年7月28日、第一出版協会)

黒川恵寛『独逸学校改革の精神』(1930(昭和5)年8月5日、玉川学園出版部)

群馬県師範学校附属国民学校『国民学校 教授の実践的研究』(1941(昭和16)年6月10日、東洋図書)

国語教育講座編集委員会『国語教育資料 14』(1951(昭和26)年8月5日、刀江書院)(国語教育講座 第6巻)

小西重直／長田 新 共著『新制準拠 統合国民学校管理法』(1941(昭和16)年10月28日、中等学校教科書株式会社)

小西重直『国民教育の基本的研究』(1942(昭和17)年6月20日、永沢金港堂)

小林佐源治『国民学校 国民科精義』(1940(昭和15)年8月25日、教育科学社)

近藤寿治『日本教育学』(1935(昭和10)年5月25日、寶文館)

桜木俊晃 編『国語教育篇』(1941(昭和16)年9月30日、朝日新聞社)(国語文化講座 第三巻)

桜井 満『国民科国語への道 一国民形成力としての国語錬成一』(1941(昭和16)年7月20日、修文館)

桜井 満『国民科国語への道 一国民形成力としての国語錬成一』(1941(昭和16)年7月20日、修文館)

佐藤熊治郎『三大教育学説の約説と批判』(1920(大正9)年11月10日、目黒書店)

佐藤熊治郎『国家総動員に直面しての 国民教育の理論的反省』(1938(昭和13)年1月20日、目黒書店)

佐藤熊治郎『現代 教育思潮批評 (増補版)』(1926(大正15)年10月15日、目黒書店)

佐藤徳一『国民学校 国民科読み方教育』(1940(昭和15)年9月20日、晃文社)(国民学校教育体系 第三巻)

佐藤富雄、岩淵 武『国民科 読方授業細案(四) 初二後期用』(1941(昭和16)年10月28日、教育実務社)

佐藤富雄、岩淵 武『国民科 読方授業細案(一) 初一前期用』(1941(昭和16)年6月5日、教育実務社)

佐藤富雄、岩淵 武『国民科 綴方話方授業細案(一) 初一前期用』(1941(昭和16)年7月15日、教育実務社)

三苫正雄／田中豊太郎 監集『初一国民学校全科指導記録』(1942(昭和17)年11月8日、厚生閣)

三苫正雄／田中豊太郎 監集『初一国民学校全科指導記録』(1942(昭和17)年11月8日、厚生閣)

滋賀県島国民学校編纂『初等科一・二年 学経営細案』(1941(昭和16)年5月8日、明治図書)

滋賀県島小学校編纂『国民学校の実践的経営』(1940(昭和15)年3月15日、明治図書)

静岡県教育会編纂『旧教科書に拠る 国民学校授業細目(初等科第三学年第二、三学期)』((不明)、(不明))

篠原助市『新教育学概論』(昭和23年6月10日、富士書店)

篠原助市『訓練原論 道德教育の原理と方法』(1950(昭和25)年9月1日、寶文館)

篠原助市『理論的教育学』(1933(昭和8)年11月3日、同文社)

篠原助市『教育辞典』(1922(大正11)年5月16日、寶文館)

清水甚吾『国民学校 学級経営法』(1941(昭和16)年6月25日、東洋図書)

白井 勇『魂に培ふ 国民科指導精説』(1943(昭和18)年6月15日、明治図書)

白井 勇『国民学校 指導・参観・批評』(1943(昭和18)年1月15日、明治図書)

白井 勇、増田 勲、緒方明吉『国民科 綴方話方指導案(一) (初一前期用)』(1941(昭和16)年7

月5日、明治図書)

皇 至道『国民教育体制の構想』(1942(昭和17)年10月20日、柳原書店)

大日本学術協会編『国民学校各科教育の本義』(1941(昭和16)年3月20日、モナス)

竹井彌七郎『国民教育学精義』(1935(昭和10)年5月13日、大明堂)

田中豊太郎『国民学校国民科 読方精義』(1941(昭和16)年6月30日、教育科学社)

千葉師範附属小学校『現教科活用 重点主義教授細目 初等科第六学年』(1941(昭和16)年4月10日、第一出版協会)

坪田譲治編『綴方子ども風土記』(1942(昭和17)年7月10日、実業之日本社)

東京行政学会『要領対照 現行国民学校令及関係法規総覧』(1941(昭和16)年4月25日、玄文社)(昭和十六年四月公布並改正)

東京高等師範附属小学校 初等教育研究会 編『国民学校の基礎的研究』(1940(昭和15)年9月20日、大日本出版)

徳沢龍潭『日本語と日本精神』(1942(昭和17)年12月10日、ダイヤモンド社)

徳沢龍潭『言葉なるもの』(1943(昭和18)年12月25日、朝倉書店)

徳田 浄『国語の教育』(1939(昭和14)年5月15日、晃文社)

内閣／内務省／文部省『国民精神総動員と小学校教育』(1938(昭和13)年1月29日、内閣印刷局)(国民精神総動員資料)

長尾陽太郎編『増補 国民学校令 及学事関係法規』(1942(昭和17)年9月10日、中文館書店)

長田 新『国家教育学』(1944(昭和19)年11月25日、岩波書店)

中野八十八『国民精神総動員と 戦時及戦後の教育』(1937(昭和12)年10月12日、明治図書)

中村忠一『日本語教授の領域』(1943(昭和18)年4月20日、目黒書店)

中村巳寄編『職場の綴り方』(1943(昭和18)年4月20日、報道出版社)

西原慶一『国語教室以前』(1938(昭和13)年6月22日、啓文社)

西原慶一『言葉の躰』(1942(昭和17)年1月20日、厚生閣)

日本放送協会編『文部省 国民学校教科書編纂趣旨解説』(1941(昭和16)年2月1日、日本放送出版協会)

日本放送協会編『文部省 国民学校三、四年教科書編纂趣旨と取扱い方』(1942(昭和17)年7月20日、日本放送出版協会)

日本放送協会編『文部省 国民学校三、四年教科書編纂趣旨と取扱い方』(1942(昭和17)年7月20日、日本放送出版協会)

日本放送協会編『文部省 国民学校高等科教科書編纂趣旨解説』(1944(昭和19)年9月20日、日本放送出版協会)

野瀬寛顯 編『国民学校の実相』(1943(昭和18)年1月25日、帝国教育会出版部)

長谷川 瑞『国民学校 教授の実践形態』(1940(昭和15)年10月21日、啓文社)

長谷川 瑞『国民学校皇民錬成 学級訓育と総合教授』(1941(昭和16)年3月25日、弘学社)

長谷川如是閑『日本教育の伝統』(1943(昭和18)年12月15日、玉川学園出版部)(教育革新叢書)

飛田多喜雄『国民学校 国語修練の道』(1941(昭和16)年12月18日、啓文社)

平井太平『皇民鍊成 綴方教育の形態』(1940(昭和15)年4月15日、第一出版協会)

平井昌夫『ローマ字学習指導論』(1951(昭和26)年7月20日、開隆堂)

広島高等師範学校附属小学校『国民学校の研究 第四集 一国民学校教育方法の研究一』(1940(昭和15)年12月25日、寶文館)

広島高等師範学校附属国民学校 学校教育研究会編著『国民学校 実践上の中心問題』(1941(昭和16)年7月5日、寶文館)

福島県女子師範学校附属国民学校『実践国民学校の経営』(1941(昭和16)年5月5日、明治図書)

福島政雄『日本教育原論』(1942(昭和17)年3月20日、藤井書店)

松月秀雄『学校令に現れたる皇国教学の目的』(1943(昭和18)年9月18日、修文館)

松村 明『ローマ字教育論 学習指導上の諸問題』(1948(昭和23)年12月10日、牧書房)(新教育叢書IX)

三浦藤作『臣民の道 精解』(1942(昭和17)年2月25日、東洋図書)

三宅武郎『国民学校 アクセント解説 第二学年用』(1943(昭和18)年7月10日、国語文化研究所)

三宅武郎『国民学校 アクセント解説 第一学年用』(1943(昭和18)年7月30日、国語文化研究所)

三宅武郎『国民学校 アクセント解説 第三学年用』(1943(昭和18)年8月10日、国語文化研究所)

三宅武郎『国民学校 アクセント解説 第四学年用』(1943(昭和18)年8月10日、国語文化研究所)

三宅武郎『国民学校 アクセント解説 第四学年用』(1943(昭和18)年8月10日、国語文化研究所)

室田 昂『言葉の教育』(1942(昭和17)年5月25日、帝国出版協会)(国民学校家庭叢書1)

百田宗治編『僕等の文章・私達の詩』(1940(昭和15)年11月5日、新潮社)(新日本少年少女文庫 第九編)

守内喜一郎『理論実践 国民学校の教育 第一巻 一目的の研究一』(1942(昭和17)年5月1日、寶文館)(国民学校教育の体系)

文部省『ヨミカタ 一 教師用』(1941(昭和16)年5月2日、東京書籍)

文部省『よみかた 四 教師用』(1941(昭和16)年9月11日、東京書籍)

文部省教育調査部編『南方圏の教育』(1943(昭和18)年1月1日、龍吟社)

文部省教育調査部編『各国教員養成制度』(1934(昭和9)年7月、文部省教育調査部)(教育調査資料第一集)

文部省教学局編纂『日本諸学研究報告 第一編(教育学)』(1937(昭和12)年8月30日、内閣印刷局)

文部省教学局編纂『日本諸学研究報告 第十八編(教育学)』(1943(昭和18)年5月10日、内閣印刷局)

文部省教学局編纂『日本諸学研究報告 特集第十篇(教育学)』(1944(昭和19)年3月20日、印刷局)

文部省教学局編纂『日本諸学研究報告 第二十篇(国語国文学)』(1944(昭和19)年4月30日、印刷局)

文部省普通学務局編纂『国民学校制度ニ関スル解説』(1942(昭和17)年5月30日、内閣印刷局)

山田 栄『国民学校教育原論』(1941(昭和16)年8月17日、教育科学社)

山田孝雄『国語政策の根本問題』(1932(昭和7)年10月29日、寶文館)

山田孝雄『国語の本質』(1943(昭和18)年12月11日、白水社)

山田正紀『言語の国民陶冶力と教育』(1936(昭和11)年4月24日、普通教育研究会)

山田正紀『言語美と国語の教育』(1939(昭和14)年7月25日、目黒書店)

吉田熊次『国民理想と教育』(1936(昭和11)年5月28日、青年教育普及会)(思想特集)

吉田熊次『国民学校教育論』(1941(昭和16)年11月24日、教育研究会)

米田政栄『国民科読方の新形態』(1940(昭和15)年12月30日、啓文社)

米田政栄『国民学校国語の修練実践』(1942(昭和17)年12月18日、啓文社)

頼 阿佐夫『国語国字問題』(1938(昭和13)年11月18日、三笠書房)(三笠全書)

稲垣隆俊『錬成の教育哲学』(1943(昭和18)年8月10日、南光書院)

第2項 雑誌

国民教育研究会『国民教育』第百五十五号 六月号(昭和16年6月1日、朝鮮皇民教育界)

曾根松太郎『高一 国民教育』第一卷 第二号(五月号)(昭和16年5月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『高一 国民教育』第一卷 第三号(六月号)(昭和16年6月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『高一 国民教育』第三卷 第七号(十月号)(昭和18年10月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『高一 国民教育』第二卷 第二号(五月号)(昭和17年5月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『高一 国民教育』第二卷 第六号(九月号)(昭和17年9月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『高一 国民教育』第三卷 第十号(一月号)(昭和19年1月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『初一 国民教育』第三卷 第七号(十月号)(昭和18年10月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『初四 国民教育』第二卷 第四号(四月号)(昭和17年4月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『初五 国民教育』第三卷 第七号(十月号)(昭和18年10月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『初六 国民教育』創刊号(昭和16年4月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『初六 国民教育』第一卷 第七号(十月号)(昭和16年10月1日、国民教育図書)

曾根松太郎『初六 国民教育』第二卷 第十二号(三月号)(昭和18年3月1日、国民教育図書)

東京文理科大学教育学会編集『教育学研究』第九卷 第七号(昭和15年10月1日、寶文館)国民学校の研究

日本諸学振興委員会『日本諸学』創刊号(昭和17年3月30日、内閣印刷局)我が国学界ノ展望ト課題

日本諸学振興委員会『日本諸学』創刊号(昭和17年3月30日、内閣印刷局)我が国学界ノ展望ト課題

日本放送協会『国民学校放送』第九十二号(二月号)(昭和17年1月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第九十三号(三月号)(昭和17年2月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第九十五号(五月号)(昭和17年4月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第九十六号(六月号)(昭和17年5月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第九十八号(八月号)(昭和17年7月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第九十九号(九月号)(昭和17年8月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百号(十月号)(昭和17年9月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百三号(一月号)(昭和17年12月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百四号(二月号)(昭和18年1月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百五号(三月号)(昭和18年2月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百七号(五月号)(昭和18年4月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百八号(六月号)(昭和18年5月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百九号(七月号)(昭和18年6月28日、日本放送協会)

日本放送協会『国民学校放送』第百十三号（十一月号）（昭和18年10月28日、日本放送協会）
日本放送協会『国民学校放送』第百十四号（十二月号）（昭和18年11月28日、日本放送協会）
日本放送協会『国民学校放送』第百十八号（一月号）（昭和18年12月28日、日本放送協会）
広島高等師範学校附属小学校学校教育研究会編集『学校教育』第三百四十五号 臨時増刊(昭和16年3月26日、広島高等師範学校附属小学校)
文部省初等教育課編『日本教育』臨時特集号(昭和16年11月1日、国民教育図書)皇国民錬成の根基
文部省初等教育課編『日本教育』第四巻 第一号(昭和19年4月5日、国民教育図書)
読方教育研究会『国民科国語』第八巻第七号(八月号)(昭和16年8月1日、読方教育研究会)
読方教育研究会『国民科国語』第八巻第八号(九月号)(昭和16年9月1日、読方教育研究会)
読方教育研究会『国民科国語』第八巻第九号(十月号)(昭和16年10月1日、読方教育研究会)
読方教育研究会『国民科国語』第八巻第十号(十一月号)(昭和16年11月1日、読方教育研究会)

第3項 資料

『国民科国語授業細目 初一』（刊年不明、発行所不明） ※島根縣鹿足郡七日市村七日市國民學校で作成されたガリ版刷のプリント p.40

第2節 国民科国語教科書教材一覧

国定第五期（国民科国語）

1年上 ヨミカタ（90頁）

番号 教材名

- 一 ラジオ体操
- 二 校庭の遊戯
- 三 アカイアサヒ
- 四 ハトコイ
- 五 コマイヌサン
- 六 ヒノマルノハタ
- 七 ヘイタイサン
- 八 アヒル
- 九 ハシレハシレ
- 十 ココマデオイデ
- 十一 カミフウセン
- 十二 ウシ・ヒバリ
- 十三 ユフヤケ

- 十四 オツキサマ
- 十五 オハヤウゴザイマス
- 十六 ホンダイサムサン
- 十七 エヲカキマシタ
- 十八 サヤウナラ・タダイマ
- 十九 ヒカウキ
- 二十 オツカヒ
- 二十一 デンワアソビ・オキヤクアソビ
- 二十二 シリトリ
- 二十三 カクレンボ
- 二十四 キヲツケ
- 二十五 アメガヤミマシタ
- 二十六 イケニフネ
- 二十七 ホタル
- 二十八 タナバタ
- 二十九 ハコニハ
- 三十 ココハドコロノホソミチダ
- 三十一 オミヤノ石ダン
- 三十二 アサガホ
- 三十三 オハカノサウヂ
- 三十四 花ツミ
- 三十五 ユフダチ
- 三十六 ニジ
- 三十七 アリ
- 三十八 川アソビ
- 三十九 メダカサン
- 四十 トビトカメ
- 四十一 シタキリスズメ
- 四十二 オ月サマ
- 四十三 モモタラウ
- 四十四 カタカナ図表

1年下 ヨミカタニ (108頁)

番号 教材名
一 山ノ上

- 二 アシタハウンドウクワイ
- 三 ウサギトカメ
- 四 ラジオノコトバ
- 五 西ハタヤケ
- 六 カマキリヂイサン
- 七 サルトカニ
- 八 オチバ
- 九 イモヤキ
- 十 コモリウタ
- 十一 オイシャサマ
- 十二 デンシャゴッコ
- 十三 ケンチャン
- 十四 冬
- 十五 お正月
- 十六 兵タイゴッコ
- 十七 ネズミノヨメイリ
- 十八 シャシン
- 十九 カゲエ
- 二十 日本のしるし
- 二十一 花サカヂヂイ
- 二十二 ユメ
- 二十三 机とこしかけ
- 二十四 ウグヒス
- 二十五 つくし
- 二十六 汽車

2年上 よみかた三（114頁）

- | 番号 | 教材名 |
|----|-----|
|----|-----|

- 八 蛙
- 九 軍かん
- 十 お話
- 十一 むしば
- 十二 ねずみのちゑ
- 十三 川
- 十四 一寸ぼふし
- 十五 つゆ
- 十六 金魚
- 十七 花火
- 十八 お祭
- 十九 きりぎりす
- 二十 海
- 二十一 子馬
- 二十二 うさぎとたぬき
- 二十三 自動車
- 二十四 長い道
- 二十五 日曜日の朝
- 二十六 うらしま太郎

2年下 よみかた四（126頁）

- | 番号 | 教材名 |
|----|----------|
| 一 | 富士山 |
| 二 | 早鳥 |
| 三 | 海軍のにいさん |
| 四 | 乗合自動車 |
| 五 | 菊の花 |
| 六 | かけっこ |
| 七 | かぐやひめ |
| 八 | たぬきの腹つづみ |
| 九 | 金の牛 |
| 十 | 満州の冬 |
| 十一 | 鏡 |
| 十二 | 神だな |
| 十三 | 新年 |

- 十四 いうびん
- 十五 にいさんの入営
- 十六 雪の日
- 十七 白兔
- 十八 たこあげ
- 十九 豆まき
- 二十 金しくんしゃう
- 二十一 病院の兵たいさん
- 二十二 支那の子ども
- 二十三 おひな様
- 二十四 北風と南風
- 二十五 羽衣

3年上 初等科国語一（145頁）

- | 番号 | 教材名 |
|----|---------|
| 一 | 天の岩屋 |
| 二 | 参宮だより |
| 三 | 光は空から |
| 四 | 支那の春 |
| 五 | おたまじゃくし |
| 六 | 八岐のおろち |
| 七 | かひこ |
| 八 | おさかな |
| 九 | ふなつり |
| 十 | 川をくだる |
| 十一 | 少彦名神 |
| 十二 | 田植 |
| 十三 | にいさんの愛馬 |
| 十四 | 電車 |
| 十五 | 子ども八百屋 |
| 十六 | 夏の午後 |
| 十七 | 日記 |
| 十八 | カッターの競争 |
| 十九 | 夏休み |
| 二十 | ににぎのみこと |

- 二十一 月と雲
- 二十二 軍犬利根
- 二十三 秋
- 二十四 つりばりの行くへ

3年下 初等科国語二（145頁）

- | 番号 | 教材名 |
|-----|--------|
| 一 | 神の剣 |
| 二 | 稲刈 |
| 三 | 祭に招く |
| 四 | 村祭 |
| 五 | 田道間守 |
| 六 | みかん |
| 七 | 潜水艦 |
| 八 | 南洋 |
| 九 | 映画 |
| 十 | 聖徳太子 |
| 十一 | 養老 |
| 十二 | ぼくの望遠鏡 |
| 十三 | 火事 |
| 十四 | 軍旗 |
| 十五 | みもん袋 |
| 十六 | 雪合戦 |
| 十七 | 菅原道真 |
| 十八 | 梅 |
| 十九 | 小さな温床 |
| 二十 | 雪舟 |
| 二十一 | 三勇士 |
| 二十二 | 春の雨 |
| 二十三 | 大れふ |
| 二十四 | 東京 |

4年上 初等科国語三（122頁）

- | 番号 | 教材名 |
|----|-----|
|----|-----|

- 一 朝の海へ
- 二 潮干狩
- 三 日本武尊
- 四 君が代少年
- 五 靖国神社
- 六 光明皇后
- 七 苗代のころ
- 八 地鎮祭
- 九 笛の名人
- 十 機械
- 十一 出航
- 十二 千早城
- 十三 錦の御旗
- 十四 国旗掲揚台
- 十五 夏
- 十六 兵営だより
- 十七 油蟬の一生
- 十八 とびこみ台
- 十九 母馬子馬
- 二十 東郷元帥
- 二十一 くものす
- 二十二 夕日
- 二十三 秋の空
- 二十四 浜田弥兵衛

4年下 初等科国語四（138頁）

- | 番号 | 教材名 |
|----|---------|
| 一 | 船は帆船よ |
| 二 | 燕はどこへ行く |
| 三 | バナナ |
| 四 | 大連から |
| 五 | 観艦式 |
| 六 | くりから谷 |
| 七 | ひよどり越 |
| 八 | 万寿姫 |

- 九 林の中
- 十 グライダー「日本号」
- 十一 大演習
- 十二 小さな伝令使
- 十三 川土手
- 十四 扇の的
- 十五 弓流し
- 十六 山のスキー場
- 十七 広瀬中佐
- 十八 大阪
- 十九 大砲のできるまで
- 二十 振子時計
- 二十一 水族館
- 二十二 母の日
- 二十三 防空監視哨
- 二十四 早春の満州

5年上 初等科国語五（138頁）

- | | |
|----|----------|
| 番号 | 教材名 |
| 一 | 大八洲 |
| 二 | 弟橘媛 |
| 三 | 木曾の御料木 |
| 四 | 戦地の父から |
| 五 | スレンバンの少女 |
| 六 | 晴れたる山 |
| 七 | ことばと文字 |
| 八 | 海の幸 |
| 九 | 軍艦生活の朝 |
| 十 | 武士のおもかげ |
| 十一 | かんこ鳥 |
| 十二 | 炭焼小屋 |
| 十三 | ぼくの小馬 |
| 十四 | 星の話 |
| 十五 | 遠泳 |
| 十六 | 海底を行く |

- 十七 秋のおとづれ
- 十八 飛行機の整備
- 十九 動員
- 二十 三日月の影
- 二十一 附録一「あじあ」に乗りて
- 二十二 附録二大地を開く
- 二十三 附録三草原のオボ

5年下 初等科国語六（178頁）

- 番号 教材名
- 一 明治神宮
- 二 水兵の母
- 三 姿なき入城
- 四 稲むらの火
- 五 朝鮮のみなか(物語、地理)
- 六 月の世界
- 七 柿の色
- 八 初冬二題
- 九 十二月八日
- 十 不沈艦の最期
- 十一 世界一の織機
- 十二 水師營
- 十三 元日や
- 十四 源氏と平家
- 十五 漢字の音訓
- 十六 塗り物の話
- 十七 ばらの芽
- 十八 敵前上陸
- 十九 病院船
- 二十 ひとさしの舞
- 二十一 附録一土とともに
- 二十二 附録二愛路少年隊
- 二十三 附録三胡同風景

6年上 初等科国語七（163頁）

番号 教材名

- 一 黒竜江の解水
- 二 永久王
- 三 御旗の影
- 四 敬語の使い方
- 五 見わたせば
- 六 源氏物語
- 七 姉
- 八 日本海海戦
- 九 鎮西八郎為朝
- 十 晴れ間
- 十一 雲のさまざま
- 十二 山の朝
- 十三 燕岳に登る
- 十四 北千鳥の漁場
- 十五 われは海の子
- 十六 月光の曲
- 十七 いけ花
- 十八 ゆかしい心
- 十九 朝顔に
- 二十 古事記
- 二十一 御民われ
- 二十二 附録一ジャワ風景
- 二十三 附録二ビスマルク諸島
- 二十四 附録三セレベスのみなか
- 二十五 附録四サラワクの印象

6年下 初等科国語八（176頁）

番号 教材名

- 一 玉のひびき(短歌、天皇)
- 二 山の生活二題
- 三 ダバオへ
- 四 孔子と顔回
- 五 奈良の四季

- 六 万葉集
- 七 修行者と羅刹
- 八 国法と大慈悲
- 九 母の力
- 十 鎌倉
- 十一 末広がり
- 十二 菊水の流れ
- 十三 マライを進む
- 十四 静寛院宮
- 十五 シンガポール陥落の夜
- 十六 もののふの情
- 十七 太陽
- 十八 梅が香
- 十九 雪国の春
- 二十 国語の力
- 二十一 太平洋
- 二十二 附録一熱帯の海
- 二十三 附録二洋上哨戒飛行
- 二十四 附録三レキシントン撃沈記
- 二十五 附録四珊瑚海の勝利

